

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第458号 発行日 平成28年1月29日



年頭の挨拶



院長 柳瀬 治

明けましておめでとうございます。

職員の皆さん一人ひとりの尽力のおかげで、当センターは穏やかな正月を迎えることができました。年末年始に勤務した皆さん、仕事初めの準備を担当した皆さん、そして自宅待機して過ごした皆さんに深く感謝いたします。

本日、舛添知事の年頭挨拶を伺ってまいりましたのでお伝えします。まず、24時間365日休むことのない福祉・医療、消防、警察、交通、上下水道などの現場で年末年始に従事された職員をねぎらわれた上で、新年の抱負を述べられました。その中で昨年と同様に現場を重視する姿勢を明らかにされ、現場の皆さんの提言や忌憚のない意見が同僚、上司、さらには知事である自分にも伝わるようにしていただくことが都政を前に進め大きな花を咲かせるために必要であると強調されました。このことは、「質の高い療育・医療サービスを提供し、重症心身障害児者の生活が豊かなものになるよう支援します」という理念のもと多職種連携を基盤に療育・医療を実践する当センターにも相通じます。率直な意見交換や提言がセンターの発展に欠かせないと思います。

さて、当センターでは一昨年新センターの基本設計が完成し、現在平成31年の竣工を目指して実施設計の策定作業が着々と進んでいます。利用者の方々、ご家族、そして職員の皆さんにとりましても夢と希望に満ちた新センターになるよう、福祉保健局および関係諸機関とも連携しながら、力を合わせて質の高い信頼される医療・療育を目指していきたくと考えております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

2016年が皆様にとりましても実りの多い年になりますようお願いしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

1-B 新春の集い

1-B 保育士 星屋 聡子

1月6日(水) 1-B病棟において、新春のつどいが開催されました。

紅白の2グループに分かれてゲームをしました。利用者の皆さんは、装飾用の羽根つきの大きな羽根をうちわに乗せて隣の人に送っていき、一周した後、職員が羽根つきをするまでの順位を競います。真剣な表情で羽根を渡す人、羽根が落ちてしまい「あー」と困った顔をしている人もいました。笑顔が多く見られ、うちわを振って応援する姿もありました。

勝利した紅組の代表者にはゴールドのモールが首にかけられ、皆さんから「おめでとうございます」と拍手をもらうと、大喜びをされていました。皆で、身体を動かし、声を出してたくさん笑いました。今年一年の皆さんの健康を祈り、利用者の方の挨拶で終了しました。



平成27年度テーマ別改善運動

事務局 赤間 紀子

当センターでは、今年度も「患者・利用者の方が安全で安心な医療やサービスが受けられる環境づくりを推進すること」を目的として、職場の身近で具体的な問題の解決に取り組みましたのでご報告いたします。

今年度は、13サークルがサービス向上・業務改善等のさまざまなテーマに取り組み、昨年の10月29日（木）に開催された院内発表会で、取り組み成果を報告しました。

院内発表会で最優秀賞を受賞した「感染拡大防止し隊」は、利用者のQOLの向上のため多剤耐性菌の感染対策に取り組みました。接触予防策の改善には感染防護用具の使用及び保管を工夫し、保菌者の感染対応にはスマイルマークを作成する等の情報共有の工夫と仕組み作りを行いました。

1月26日（火）都庁大会議場で、今年度の活動を締めくくる「テーマ別改善運動発表会」が開催され、都立・公社病院、都立重症心身障害児・者施設等で活動した代表18サークルが、多種多様な改善提案を発表しました。当センター代表「感染拡大防止し隊」の発表は、入賞こそ逃しましたが、審査員からは「院内感染の観点から保菌者の情報共有は大事な取組である。」等の評価を受けました。また、今後はICTと連携し、センター全体での統一した取組が期待されるところです。

テーマ別改善運動に取り組んだ各サークルの皆様、お疲れさまでした。来年度も引き続き積極的な取組を行っていきます。



院内発表各賞受賞サークル一覧

	所属	サークル名	テーマ名
最優秀賞	4-2病棟	感染拡大防止し隊	みんなで防ごう耐性菌！ -防護用具ワゴンの整理とQOLの向上を 目指した試み-
優秀賞	薬剤科	薬剤∞(エイト)	みんな溶きめく
	栄養科	臨機応援隊	いざという時にあわてないためにⅡ ～緊急時における栄養科の対応～
敢闘賞	1-A病棟	トイレでポトン2	フラット型車椅子トイレの実現に向けて
	3-2病棟	それいけ！かんぱんマン	その時、あなたは・・・
	4-1病棟	コストもれなくし隊	よ～く考えよう！コストは大事だよ！ ～病棟スタッフの意識向上を目指して～

第11回福祉保健医療学会に参加して

1-B病棟 看護師 花田 圭子

12月17日（木）第11回福祉保健医療学会が開催され、「重症心身障害者におけるがん終末期の関わり」というテーマでポスターセッション発表を行いました。重症心身障害者の痛みや苦痛の把握はとても難しいものです。そこで、スタッフ間で共通認識できる痛み・苦痛のアセスメントシートを作成し、カンファレンスを継続的に行い、ケアを検討することで個別性に配慮した関わりができたので発表させていただきました。

発表を終えると、ケアの参考にしたいので詳しく内容を知りたいと直接私達のところに来てくれた人もいました。私達の発表が重症心身障害児者へのより良いケアにつながる一助となったのではないかと思い、このような場所で発表できたことを嬉しく感じました。

また、今回の学会では、「グローバル化が進む中での感染症対策を考える」というテーマでシンポジウムがありました。新たな感染症が国内に侵入する事態はいつ起きてもおかしくない状態であり、感染症に対する備えが重要であることを再認識し、興味深く聴くことができました。

今後も機会があれば積極的に学会に参加し、多くの事を学んでいきたいと思いました。



院内職員研修 「重症心身障害児者への音楽療法」を開催しました

指導科 橋本 則子



1月13日（水）「重症心身障害児者への音楽療法」のテーマで、院内職員研修が開催されました。講師は、日本音楽療法学会認定音楽療法士で、長年にわたり重症心身障害者の音楽療法に携わってきた、大澤和子先生です。

まず前半は、センター利用者さんに参加してもらったの公開セッションで、音楽療法が実際にどのように行われているのかを学びました。その後は、今回ボランティアで参加された、音楽療法士でボイストレーナーの青拓美先生から、参加者全員がミニボイストレーニングを受けた後

に、合唱したり、ハンドベルや鈴で合奏をして、音楽の楽しさを体験しました。

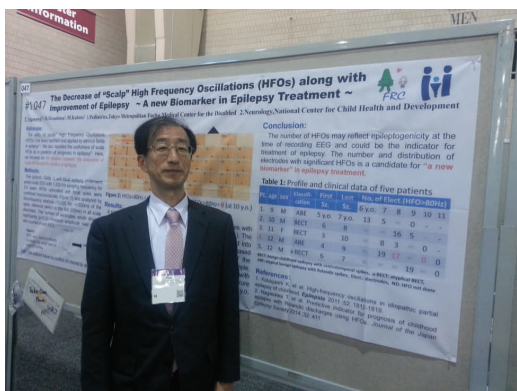
そして後半は、大澤先生による講義が行われ、音楽療法の定義や歴史、重症心身障害者への音楽療法について実際に先生が行っている事例などを合わせてお話いただき、幅広く学ぶことができました。

半日とは思えない盛りだくさんな内容で、いろいろな側面から音楽の力を感じられた研修となりました。今回学んだことを活かし、これからも音楽を通して利用者さんが笑顔で、より元気になるような活動を行っていきたいと思います。



第69回アメリカてんかん学会に参加して

小児科 医師 長澤 哲郎



メタセコイヤン・くぬぎちゃんと共に渡米

12月4日から8日まで、米国フィラデルフィアで開催されたてんかん分野で最大の国際学会に昨年に引き続き参加させていただきました。今年の会長シンポジウムのテーマは、「てんかんをもとから治療し、さらには予防しよう！」で、これまで治療の中心であった内服治療ではどうしても3割程度の難治例が残ることから、思い切った発想の転換により根本治療を目指すというものです。後半の「予防する」点については、仮死や脳症の急性期に積極的に介入して、てんかんを起こす力を削いでしまおうという、私たちにとっても直接関係のある話で大変興味深く拝聴してきました。ほかに、けいれんを起こす部位の焼灼術、脳波と知能の関係、きわめて難治な急性脳症の

原因等々、さまざまな最新の知見を勉強することができました。

私の発表は、国立成育医療研究センターと共同研究で行っている脳波の高周波成分の臨床応用についてです。この高周波成分を経年的に追っていくとあるところで急に減弱してくるので、それを利用すれば抗けいれん薬を早めに減量・中止できる可能性があるとの結論が得られました。内服に伴う多くの不利益、とりわけ患者さんご家族にとっての心理的負担は計り知れないだけに、大きな反響がありびっくりしました。帰国後、本研究を重症心身障害分野で応用できればと考えるようになりました。

フィラデルフィアは、独立宣言で有名な歴史のある街です。ちょうどクリスマスシーズンで電飾がとてもきれいでした。朝7時から夜9時頃までびっしりとプログラムが組まれていたので、ホテルに帰る途中に眺めるだけでしたが、それでも忙しい日常を離れて気分転換になりました。留守を守っていただいた大越先生、岡部看護長はじめ病棟スタッフの皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。



フィラデルフィアのクリスマス風景

認定看護師紹介

第3回 感染管理

感染管理認定看護師 工藤 靖子

感染管理認定看護師の活動は、「重症心身障害児者施設における感染防止対策活動を実践し、安全で質の高い療育・医療の提供をする」ことです。そのために、入所中の全ての利用者、施設内で働く全ての職員、家族、外来者などを対象とした感染管理活動を実践しています。具体的には、①マニュアル作成②MRSA及び耐性菌の集計・評価・報告③疫学的な知識に基づき院内感染発生に関するデータの収集・分析・評価④手指衛生サーベイランスとして、擦式剤使用量の調査の実践、手指衛生の他者チェック、病棟巡回や手洗いの実技指導、手技チェックを実施⑤設備・器材の環境・衛生管理⑥感染症発生状況の把握と対策⑦相談、教育、指導を行っています。

これからも、どうぞよろしくお願いたします！！

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042 (323) 5115

Fax 042 (322) 6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>